

第二学期終業式式辞

令和6年12月20日

※二学期を振り返って・・・It's 笑 time! ～輝く笑顔 あふれる思いで～

二学期末とともに、2024年、令和6年も終わりに近付き、2025年を迎えようとしています。今年は、全国的に本格的なコロナ後の活動という印象が強く、多くの学校行事を盛大に行うことができました。

「It's 笑 time! ～輝く笑顔 あふれる思いで～」という今年度の生徒会スローガンは、多くの制約があった時期を乗り越え、忘れてしまっていたことを思い出し、多くのことに前向きに取り組むためのスローガンだったように思えます。

特に二学期は、学校行事も多く、暑い中での体育大会、少し小雨の小松高祭、気持ちの良い天候の中でのウォークラリーなど生徒も先生も細かいところまで計画を立て、成功に導いていただいたこと心から感謝します。三学期もよろしくお願いいたします。

野球部は秋季愛媛県大会ベスト4、吹奏楽部はマーチングコンテストに愛媛県大会では金賞、2年連続で四国大会出場、「えひめ地域づくりアワード・ユース2024」特別賞・奨励賞など自分たちの得意分野でそれぞれ努力をしていたのがよくわかります。

※高山良二さんとの再会・・・カンボジアで地雷除去だけでなく産業を興す

今回は平和活動を長年行ってきている高山良二さんの話をします。

今年のノーベル平和賞を日本被団協、すなわち日本原水爆被害者団体協議会が受賞したことが日本中の話題になりました。オスロに同行していた高校生平和大使の現地での交流活動も話題となっています。日本被団協は核兵器のない世界を被爆した立場で訴えてきた団体です。平和を願うことは誰しもが行うことですが、信念に基づいて継続して平和を追求し続けていることがすばらしいと思います。

高山良二さんは、三間町出身の方で、もと自衛官で、今78歳です。何をされている方かというカンボジアで地雷除去に取り組んでいます。昨年前任校で講演を依頼した関係でライン交換しました。先日12月7日土曜日に愛媛県高等学校PTA連合会の会があり、吉實会長とともに参加してきたわけですが、そこで講演者として来られていたので一年ぶりの再会でした。1992年に国連平和維持活動が日本で法整備され、そのときカンボジアに派遣されました。そこで地雷除去の指揮をとっていたのですが、一緒に活動をしていたカンボジア人が地雷で7名亡くなるんです。いろんな思いがあり、自衛隊を定年退職した後に再びカンボジアに渡り、また地雷除去を組織的にはじめたのです。2019年6月13日放送『奇跡体験!アンビリバボー』に取り上げられ、この5月くらいにひめポンでも特集されました。YouTubeなどにもアップされているので見てみてください。愛媛新聞には不定期に、カンボジアの生活についてコラムを書いておられます。先日も掲載されていました。おおらかな方で、平気で生徒の前で「勉強が嫌いならなくていい」と言うのですが、継続して平和維持の活動をした上に、カンボジアの将来を考えて酒造という産業を興しました。たいへんな努力があったと思います。現地の農産物タロイモ、マンゴー、コーヒー、ジャスミン米などを原料にお酒を造り、去年はフランスの品評会に出品したそうです。一つは最高峰の金賞をいただき、4種類が入賞だったそうです。今年はいギリスで行われた品評会でまた4種類が入賞、来年はアメリカ進出を狙っているそうです。

冬休み、3年生は卒業後の目標に向けて、1、2年生は将来の目標に向けて多くのことを考えることになると思いますが、何か信念をもって取り組むことができればよいですね。自分の道を探しながら、いろんなことに挑戦し、楽しんでください。

3学期元気で会いましょう。